

令和元年度

千早赤阪村立学校園

評価報告書

学校園名（千早赤阪村立中学校）

校園長名（仲村悦弘）

## 1. 教育目標

### 「自立への意欲と自信」

○確かな学力をつける      ○豊かな心を養う      ○健やかな体を育てる

#### 【めざす生徒像】

- ・学ぶ喜びを見つける生徒
- ・思いやるやさしさを身につけた生徒
- ・弾むたくましさにあふれる生徒

## 2. 経営方針

#### 【めざす学校像】

- 教育目標の達成に向けた様々な取組みより、生徒一人一人が個性を發揮し、いきいき活動する明るい学校
- 学校全体として、生徒の学力向上に向けた方策の展開
- 高い人権意識に基づいた生徒指導の展開
- 地域で育つ子供たちの視点を大切にされた開かれた学校
- きめ細かな指導、支援に努め、生徒一人ひとりをより大切にする学校
- 生徒による清掃活動や環境整備に努める美しい学校

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<p>○基礎・基本の充実を図るとともに、主体的に対話的で深い学びなどを重視した学習活動を行う。</p> <p>○自学自習力も含めた学力向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えて書く力及び知識・技能を活用する力の育成</li> <li>・主体的な学習を展開する学習活動の展開</li> <li>・対話的で深い学びにつながる授業の構築</li> <li>・読書活動の充実</li> <li>・生徒相互の人間関係力の育成</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<p>○研究授業及び研修の実施 「確かな学びプランに基づいた取り組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の「めあて」と「振り返り」を重視した授業の実施・授業スタンダードの「考える、話す、書く」を重視した授業づくり・全ての教科・領域で主体的な対話学習活動を研究の柱とした研究授業の実施・自学自習ノート(KGG ノート)の取り組み・効果的な生徒作成ノートや発表資料の掲示、周知及びノートや発表資料の作成の意欲の向上・定期テストや実力テストにおける活用問題の位置づけ・テスト前学習会や放課後学習会の実施・小説や物語を中心に朝読書を毎日実施し、日付・ページ数を記入・特別の教科道徳の研究授業を実施し、その評価についての研究を実施・ICTを活用した主体的に対話的で深い学びについての研修の実施</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<p>○研究授業及び研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業スタンダードの「考える」「話す」「書く」の授業づくりについて教員の意識が高まった。全ての教科・領域で主体的な対話を重視した学習活動を研究の柱としたことで、グループ等での主体的な対話活動等に焦点を当てた研究授業が3回できた。それにより、思考力や判断力の育成についての研修が深まった。</li> <li>・生徒が作成した効果的なノートや発表資料を定期的に掲示することにより、論理的な思考力もとにしたノートや発表資料の作成について、生徒の意識が高まった。</li> </ul> <p>■教科道徳の研究授業を行い、その評価方法について、通知表等の記載など具体的な例により協議することができた。</p> <p>■自ら学習する態度を育成するための自学自習ノート(KGG ノート)の取り組みのさらなる充実</p>
A	次年度に向けて	<p>○新学習指導要領に向けた、学力向上に向けた取り組みを一層充実させることが必要である。(授業づくりによる思考力・判断力の育成、自学自習力の育成等)</p> <p>○進路・キャリア教育について、キャリアパスポートの作成を本格化させる。</p> <p>○新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校時の未履修の確認及びそれに伴う実施計画。</p>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		II 安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的に安全に行動できる生徒の育成</li> <li>○通学路や校区の危険個所の把握</li> <li>○個別のケース支援を充実するとともに、SC、SSW、給食センターなどと効果的に連携する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまなケースを想定した避難訓練等防災教育を計画的に実施する。</li> <li>・通学路の危険個所の把握と対応策</li> <li>・登下校時の安全指導の徹底</li> <li>・食物アレルギーの対応を行う。</li> <li>・いじめの未然防止と早期対応を実施する。</li> <li>・生徒の心のケアのため、SC、SSWの積極的な活用</li> </ul> </li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的に安全に行動できる生徒の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期始めや終わりでの啓発及び指導・自転車通学路の安全確認</li> <li>・保護者への情報提供・防災アドバイザーによる防災教室の実施</li> <li>・警察と連携し、薬物乱用防止教室の実施・インフルエンザや新型コロナウイルス感染防止のための対応の実施、</li> </ul> </li> <li>○通学路や校区の危険個所の把握               <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校指導の実施と通学路の安全点検</li> <li>・PTA 実行委員会等での危険個所の情報確認</li> </ul> </li> <li>○各学期における「教育相談期間」の設定といじめアンケートを実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の悩みに寄り添い、問題行動等の早期発見、未然防止に努める。</li> <li>・毎週、生徒の様子や問題行動等についての情報を共有する機会を持っている。</li> </ul> </li> <li>○日常的な施設の点検と即時の修理及び村教委との連携</li> <li>○給食センターと連携し、食物アレルギー対応の研修を実施</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的に安全に行動できる生徒の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車通学生への注意喚起及び適宜に指導することができた。</li> <li>・専門の方と連携し、防災教室や薬物乱用防止教室を実施できた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染防止のため、「体温チェックシート」活用し、手洗い・うがい等を行った。</li> <li>・教室内に湿度保持のため、濡れタオルやミストを活用した。</li> </ul> </li> <li>○通学路や校区の危険個所の把握               <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路の安全点検の実施やPTAとの危険個所の確認ができた。</li> <li>・地図による危険個所の確認は、継続中。</li> </ul> </li> <li>○各学期における「教育相談期間」の設定と「いじめアンケート」の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談やいじめアンケートの内容を教職員で共有し、問題行動等の未然防止に努めることができた。</li> </ul> </li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練も、防災アドバイザーの助言により、様々なケースを想定して実施する必要がある。</li> <li>○安全面を配慮し、自転車通学の距離設定を変更することも想定している。</li> <li>○子どもの状況を知る手立てとして、教育相談、いじめアンケートを継続していく。</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 学校及び教職員の資質の向上
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評議員制度の活用</li> <li>○幼稚園、小学校との積極的な連携</li> <li>○教職員の資質向上や不祥事の防止               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とともにある学校園づくり</li> <li>・生活指導などで連携を深める。</li> <li>・経験年数の少ない教員の育成</li> <li>・不祥事の未然防止</li> <li>・長時間労働の改善</li> </ul> </li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評議員会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部から校内の様子について、様々な角度からご意見、ご質問をいただいた。いただいた内容は校内で共有している。</li> </ul> </li> <li>○幼稚園、小学校との積極的な交流               <ul style="list-style-type: none"> <li>・年 10 回の生活指導連絡協議会により幼稚園、小学校、中学校の情報交換が行われた。・TM 事業の研究授業に多くの小学校の先生の参加により、討議会が活性化された。・小学校外国語活動と中学校英語科についての情報交換をしたり、情報共有を行った。</li> </ul> </li> <li>○教職員の資質向上と不祥事の防止について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・年 2 回の相互の授業見学と、年 3 回の研究授業を実施し、授業改善につなげている。・経験の浅い教員の困り感から授業観察のポイントを考察。・校則の改善、変更について、議論を始めている。</li> <li>・様々な会議等を活用し、具体的な資料を活用し、不祥事の未然防止を図った。</li> </ul> </li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園、小学校との積極的な交流               <ul style="list-style-type: none"> <li>・TM 事業の研究授業において、他校の先生からの意見を聞くことにより、授業改善への意欲が高まった。</li> <li>・幼小中生生活指導連絡協議会の情報交換により、様々な状況がよくわかり、本校の生徒指導に役立った。</li> </ul> </li> <li>○教職員の意識向上と不祥事予防について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修部と連携し、授業研究のポイントを明確にし、授業改善に必要な課題点を話し合うことができた。</li> <li>・職務専念義務という観点と職務の効率化による長時間労働に対する注意喚起と意識向上を図った。</li> <li>・かばん、体操服を変更したことをはじめ、生徒が学校生活しやすいよう校則も考えていきたい。</li> </ul> </li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経験の浅い教員における、効果的な授業観察と事後協議の具体的な方法の策定</li> <li>○職務のさらなる意識の向上と長時間勤務を回避するための仕事の効率化の継続的に図る。</li> <li>○教室に入れない生徒の対応について、適応指導教室の設置を想起をお願いしたい。</li> </ul>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		予備（各校独自の重点項目があれば記載）
P	重点目標	該当なし
D	具体的な取り組み内容	
C	自己評価／成果と課題	
A	次年度に向けて	

## 4. 教育自己評価

本年度の学校教育自己診断における学校アンケート（教職員）において昨年度比較を参考に報告します。

（肯定的：「そう思う」「だいたいそう思う」 否定的：「あまりそう思わない」「思わない」）



## 教職員アンケート結果より

○概ねの項目で肯定的評価が80%以上となっている。昨年度と比較して大きな傾向の違いはない。

○肯定評価が低い内容は次の通りです。

- ・「経験の少ない教職員を学校全体で育成する」(約45%)

→現在、経験の少ない教員の割合が高くなっている。学校規模が小さいため、教員数も少なく校務分掌上体制づくりが難しい。平素から経験の浅い教員を育成する仕組みが難しい課題となっている。できるだけ様々な取り組みの中で育成する観点を大切にしながら進めていく必要がある。

- ・「校内研修の組織の確立と計画的な研修の実施及び内容の充実」(約42%)

→校内研究授業を立候補で募っていたので、授業者が変更になった場面も見られた。また、学力向上の取組みや特別の教科道徳の具体的な評価方法を含めた研修もあり、研修の方向性として一致した取り組みが明確でなかったように思われる。来年度は研修に関わる内容を整理し、充実させていく必要がある。

## 5. 学校園関係者評価

※別添「学校アンケート(生徒用・保護者用)結果

## 6. 第三者評価

○本校学校評議員からのご意見による評価→質問内容

- ・生徒一人ひとりが安心して学校に登校できるように配慮してもらいたい。小学校とも連携して、子どもの状況を把握することは大切であろう。
- ・自分で考えて、作文や手紙等を意識して書く活動は重要であろう。そのためにも、読書活動する時間を大切にしてほしいと考える。様々ことを自分の中にインプットする取り組みである読書活動を推進する手立ても必要である。学校では読書活動をどのように進めているのか。  
→毎日、朝の時間を活用して朝読書を行っています。また、昼休みの時間は図書委員が本の貸し出しを行っているところです。
- ・不登校の原因は様々であるが、周りに生徒が無関心になることがないようにしてもらいたい。
- ・生徒数が少ない部活動もあると聞いているが、部活動の継続は、子どもの経験を広げることにつながると思う。
- ・文化発表会などがクラス数の減少により、短くなっているようなことを聞いた。何か工夫ができればいいと思う。